

EUのAIに関するフレームワーク

* 2021年4月23日のCEPによるセミナー「A European approach to the regulation of artificial intelligence」の資料に基づいて経産省が作成

資料5



- **BusinessEurope (Twitter)** : グローバルなAI競争において道を切り開こうとしているEUの姿勢を歓迎。しかし現状では、いわゆる「ハイリスク」アプローチが依然として反映されていないと懸念。追って提案をする予定。
- **Orgalim** : 欧州のリーダーシップを支持。他方で、多くの懸念もある。リスクベースアプローチを支持するが、法的な曖昧さを減らすようお願いしたい。
- **BEUC** : 消費者団体からみて期待はずれである。非常に限定的なAIの用途や論点にしか焦点を当てていない。たとえば、医療保険のためのリスクアセスメントという用途がハイリスクに含まれていない。
- **DigitalEurope** : 良いスタートラインを提示。他方で、AI分野には中小企業が多く、過度な負担につながるのではないかと懸念。今後、ハイリスクに指定された分野にスタートアップが参入することになるかは明らかではない。GDPRのときのような施行段階での混乱は避けてほしい。欧州AIボードには官民協力のために産業界を入れるべき。
- **Business Software Alliance** : ハイリスクAIの使用を禁止せず、適切な策を講じることで利益を得ていこうという方向は共有できる。EUだけで立法等を進めるのではなく、国際的なパートナーやマルチステークホルダーとの連携に期待。そうすることで、欧州のルールが、AIというこれまでにないイノベティブな技術の発展に追いつくことができる。AIに対する信頼性を高めることは共有された課題。
- **AmCham EU** : リスクベースアプローチを採用したことは評価。分析には時間が必要。この法案は世界に影響を与えることになる。今後も国際的調和を目指すアプローチを継続してほしい。
- **Information Technology Industry Council** : 政策担当者には、ハイリスクを焦点を当て、柔軟な規制を心がけてほしい。複数国間のルールの調和が求められる。

